作成日 2013年11月11日
改訂日 2024年1月31日

安全データシート(SDS)

製品名 D-Lux COATING ベースコート A液

1. 製品及び会社情報

製品名	: D-Lux COATING ベースコート A液
品番	: DHT-D101
推奨用途及び使用上の制限	
推奨用途	: コーティング【業務用】
使用上の制限	: 推奨用途以外への使用は禁止する
供給者の会社名称	: 中央自動車工業株式会社
住所	: 大阪市北区中之島4丁目2番30号
担当部門	: 商品開発部 研究開発グループ
電話番号	: 06-6443-5846
FAX番号	: 06-6445-8573
整理番号	: 1104-5-D

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

: 引火性液体	区分2
皮膚腐食性/刺激性	区分2
誤えん有害性	区分1
水生環境有害性 短期(急性)	区分1
水生環境有害性 長期(慢性)	区分1

※記載のないものは区分に該当しないまたは分類できない。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

H225 引火性の高い液体および蒸気
H315 皮膚刺激
H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
H400 水生生物に非常に強い毒性
H410 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

P210 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P233 容器を密閉しておくこと。
P240 容器を接地すること、アースを取ること。
P241 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
P242 火花を発生させない工具を使用すること。

P243　静電気放電に対する予防措置を講ずること。
P264　取扱い後、手をよく洗うこと。
P273　環境への放出を避けること。
P280　保護手袋、保護面を着用すること。

【応急措置】

P301+P310+P331　飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。吐かせないこと。
P303+P353+P332+P313+P361+P364　皮膚(または髪)に付着した場合:皮膚を流水、シャワーと石けんで洗うこと。皮膚刺激が生じた場合:医師の診察、手当てを受けること。汚染された衣類を直ちにすべて脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P370+P378　火災の場合には適切な消火方法をとること。
P391　漏出物を回収すること。

【保管】

P403+P235+P405　容器を涼しく換気の良い所で施錠して保管すること。

【廃棄】

P501　内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別　:混合物

含有成分及び含有量

物質名	含有量(%)	毒劇法	安衛法	化管法	CAS No.
イソパラフィン系溶剤	90 - 95	非該当	非該当	非該当	非公開
オクタン※1	(60 - 70)	非該当	該当	非該当	非公開
ノナン※1	(1 - 10)	非該当	該当	非該当	非公開
ヘキサン※1	(0.1 - 5.0)	非該当	該当	非該当	非公開
ヘプタン※1	(0.1 - 5.0)	非該当	該当	非該当	非公開
シロキサン化合物	0.1 - 5	非該当	非該当	非該当	非公開
ケイ素樹脂	0.1 - 5	非該当	非該当	非該当	非公開
フッ素系シロキサン化合物	0.1 - 5	非該当	非該当	非該当	非公開

この組成の正確な含有量(濃度)は営業秘密として非開示としています。
※1:イソパラフィン系溶剤に含まれる安衛法該当物質。異性体混合物の為、CAS No.は特定できない。直鎖体の含有量は化管法規制値未満。

4. 応急措置

吸入した場合　:空気の新鮮な場所に移し、保温して安静を保ちながら呼吸しやすい姿勢で休息させる。
嘔吐がある場合は頭を横向きにして嘔吐物を飲み込ませない様にする。
気分が悪い場合は医師に連絡する。

皮膚に付着した場合　:汚染された衣類を速やかに脱ぎ、皮膚を多量の水と石けんで十分に洗う。
外観の異常や痛みがある場合は必要に応じて医師の診察を受ける。

眼に入った場合　:清浄な流水で15分間注意深く洗う。容易に外せる場合はコンタクトレンズを外して洗眼する。
眼の刺激が続く場合は眼科医による診察と手当てを受ける。

飲み込んだ場合　:誤えんの恐れがあるため吐かせない。口腔内を水洗し、直ちに医師の診察を受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
:肺に入った場合:咳、窒息、喘鳴音、呼吸困難、胸部うっ血、息切れ、発熱
皮膚に付着した場合:灼熱感、乾燥、ひび割れ

応急措置をする者の保護に必要な注意事項
:救助者が有害物質に触れないよう手袋やマスクなど、適切な保護具を使用する。

医師に対する特別な注意事項　:特になし

5. 火災時の措置

適切な消火剤　：二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂、霧状水、耐アルコール性泡消火剤

使ってはならない消火剤　：棒状注水

火災時の特有の危険有害性　：当該製品の燃焼ガスには、一酸化炭素等のほか、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には煙を吸入しないように注意する。

特有の消火方法　：消火作業は、風上から行う。
火災発生場所の周辺は関係者以外の立ち入りを禁じ、可燃物は速やかに取り除く。
容器は速やかに安全な場所に移す。困難な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も多量の水を用いて、十分に容器を冷却する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置
：消火作業では、皮膚、目、呼吸器を保護する適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項　：屋内で漏出した場合は、窓、ドアを開けて十分に換気を行う。
漏出した場所の周辺に、ロープを張る等して関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業の際、皮膚、目、呼吸器を保護する適切な保護具を着用する。
風上から作業し、風下の人を退避させる。
着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項　：洗浄した水等は地面や排水溝にそのまま流さない。
下水等に入り込まないように注意する。

除去方法　：少量の場合は、土、砂、土砂、乾燥砂、ウエス等に吸収させ、密閉できる空容器に回収する。
多量の場合は、土砂・土のう等で流出を防ぎ、安全な場所に導いて回収する。
廃棄物は、関連法規等に基づいて処理する。

二次災害の防止法　：漏出時は速やかに関係機関に通報する。
付近の着火源となるものや高温体及び可燃物を速やかに取り除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策　：換気の良い場所で使用し、蒸気及び噴霧されたミストを吸い込まないようにすること。
周辺での火気、スパーク、高温物の使用は避け、着火源から遠ざけること。

安全取扱い注意事項　：製品記載の使用上の注意をよく読み、用途以外に使用しないこと。

接触回避　：水と接触して有害ガスを発生するおそれがあるので、湿気のある雰囲気で取り扱ってはならない。

衛生対策　：必要に応じて、皮膚、目、呼吸器を保護する適切な保護具を着用すること。
作業中は、飲食または喫煙をしないこと。
取扱い後は、手洗い、うがい、洗顔等を十分に行い、作業衣等に付着した場合は着替えること。

保管

安全な保管条件　：使用するまで容器は決して開栓せず、風通しの良い冷暗所に施錠して保管すること。
直射日光、40°C以上の高温、湿気の多い所は避けること。
着火源、強酸化剤から離して保管すること。

安全な容器包装材料　：特になし。容器を移し替えないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度・許容濃度等

物質名	管理濃度	許容濃度 Threshold limit value	
		日本産業衛生学会（2020年度版）	ACGIH（2019年版）

オクタン	-	-	TWA 300ppm
ヘキサン	-	-	TWA 500ppm　STEL 1000ppm
ヘプタン	-	-	TWA 400ppm　STEL 500ppm

設備対策　：屋内は全体に換気する。
換気の悪い場所及び蒸気の発生の多い場所には局所排気装置を設ける。
屋内作業場で多量に使用する時は、蒸気が滞留しないように、排気装置を設ける。
発生源の密閉化、取扱いについては火気のない換気の良い場所で行う。
防爆の電気・換気・照明機器を使用し、静電気放電に対する予防措置を講じる。
取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具
- 呼吸器の保護具　：通常の使用条件下では保護具は必要ない。有機ガス用防毒マスクを必要に応じて着用すること。
- 手の保護具　：耐溶剤性の保護手袋を必要に応じて着用すること。
- 目の保護具　：保護眼鏡を必要に応じて着用すること。
- 皮膚の保護具　：保護衣、保護前掛けを必要に応じて着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	：混濁液体
色	：無色～淡黄色透明
臭い	：特異臭
融点／凝固点	：データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	：73-140℃
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	：データなし
引火点	：-12℃
自然発火点	：データなし
pH	：データなし
動粘性率	：データなし
溶解性	：水に不溶
n－オクタノール／水分配係数	：データなし
蒸気圧	：データなし
密度及び／又は相対密度	：0.72 ± 0.05
相対ガス密度	：データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	：通常の取扱い条件において安定
危険有害反応可能性	：熱分解により二酸化炭素、一酸化炭素、窒素酸化物を発生させる恐れがある。
避けるべき条件	：高温、熱源、裸火へのばく露
混触危険物質	：強酸化剤、強酸、強塩基
危険有害な分解生成物	：データなし

11. 有害性情報

急性毒性－経口
- 製品　：区分に該当しない。
- イソパラフィン系溶剤　：LD_{50} > 5,000 mg/kg (ラット)[原料SDS]

急性毒性－経皮
- 製品　：区分に該当しない。
- イソパラフィン系溶剤　：LD_{50} > 5,000 mg/kg (ラット)[原料SDS]

急性毒性－吸入
- 製品　：区分に該当しない。

ケイ素樹脂　　: LD_{50} = 1,857ppm/4h (ラット)[原料SDS]
皮膚腐食性/刺激性
製品　　: 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
製品　　: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
呼吸器感作性
製品　　: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
皮膚感作性
製品　　: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
生殖細胞変異原性
製品　　: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
発がん性
製品　　: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
生殖毒性
製品　　: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)
製品　　: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)
製品　　: 分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
誤えん有害性
製品　　: 区分1

12. 環境影響情報

水生環境有害性　短期(急性)
製品　　: 区分1
水生環境有害性　長期(慢性)
製品　　: 区分1
残留性・分解性
製品　　: データなし
生体蓄積性
製品　　: データなし
土壌中の移動性
製品　　: データなし
オゾン層への有害性
製品　　: データなし

13. 廃棄上の注意

許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。
容器、機械装置等を洗浄した排水は、地面や排水溝にそのまま流さない。
空容器は、内容物を完全に除去した後に廃棄する。
その他関連法規の定めるところに従う。

14. 輸送上の注意

国際規制
国連番号　　: 1993
品名(国連輸送名)　　: 引火性液体 n.o.s.
国連分類　　: クラス3(引火性液体)
容器等級　　: II
海洋汚染物質　　: 該当

国内規制
　陸上輸送　　：消防法の定めるところに従う。
　海上／航空輸送　　：船舶安全法、航空法の定めるところに従う。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策
　　：“取扱い及び保管上の注意”の項の一般的注意に従う。
　　容器は漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
　　引火性液体なので「火気厳禁」。
　　水漏れ・横積み厳禁。
　　容器は温度上昇を抑制するものである必要がある。
緊急時応急措置指針番号　　：128　引火性液体(非極性、水不溶)

15. 適用法令

化審法　　：本製品は既存化学物質の混合物に該当するため対象外
消防法　　：危険物 第四類 第一石油類 危険等級II
毒物及び劇物取締法　　：非該当
労働安全衛生法
　危険物　　：引火性の物
　特定化学物質障害予防規則：非該当
　有機溶剤中毒予防規則　　：非該当
　　第一種有機溶剤等　　：含有していない。
　　第二種有機溶剤等　　：含有していない。
　　第三種有機溶剤等　　：含有していない。
　表示対象物質　　：オクタン、ノナン、ヘキサン、ヘプタン
　通知対象物質　　：オクタン、ノナン、ヘキサン、ヘプタン
化学物質排出把握管理促進法：非該当
船舶安全法　　：引火性液体類
　個品運送　　：海洋汚染物質
航空法　　：引火性液体
海洋汚染防止法　　：有害液体物質(X類物質)
　有害液体物質　　：ばら積みの輸送条件に当たらない。

16. その他の情報

1. 配合原料メーカー発行の安全データシート
2. GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針
   (2023年9月版、一般社団法人 日本化学工業協会 編集、一般財団法人 日本規格協会 発行)
3. 各関連法規
4. NITE 化学物質総合情報提供システム(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)

混合物である製品の危険有害性情報は、個々の原材料の危険有害性情報から推定したものです。安全データシートは、危険有害な化学製品について安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱う事業者に提供されるものであり、安全の保証書ではありません。取扱う事業者は、これを参考として自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずる必要があることを理解した上で、活用されるようにお願いします。

作成日　2013年11月11日
改訂日　2024年1月31日

安全データシート(SDS)

製品名　　D-Lux COATING ベースコート B液

1. 製品及び会社情報

製品名	: D-Lux COATING ベースコート B液
品番	: DHT-D102
推奨用途及び使用上の制限	
推奨用途	: コーティング【業務用】
使用上の制限	: 推奨用途以外への使用は禁止する
供給者の会社名称	: 中央自動車工業株式会社
住所	: 大阪市北区中之島4丁目2番30号
担当部門	: 商品開発部 研究開発グループ
電話番号	: 06-6443-5846
FAX番号	: 06-6445-8573
整理番号	: 1105-6-D

2. 危険有害性の要約

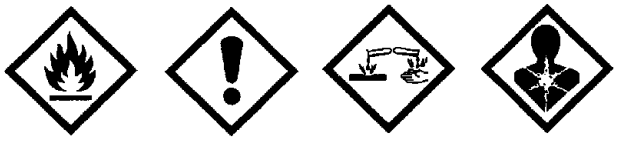
化学品のGHS分類

: 引火性液体		区分3
急性毒性－経口		区分4
皮膚腐食性/刺激性		区分1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		区分1 (呼吸器、肝臓)
		区分3 (気道刺激性、麻酔作用)
誤えん有害性		区分1
水生環境有害性　短期(急性)		区分3
水生環境有害性　長期(慢性)		区分3

※記載のないものは区分に該当しないまたは分類できない。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語　　: 危険

危険有害性情報

H226　引火性液体および蒸気
H302　飲み込むと有害
H314　重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
H318　重篤な眼の損傷
H370　呼吸器、肝臓の障害
H335+H336　呼吸器への刺激のおそれ、または、眠気またはめまいのおそれ
H304　飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
H402　水生生物に有害

H412 長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

P210 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P233 容器を密閉しておくこと。
P240 容器を接地すること、アースを取ること。
P241 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
P242 火花を発生させない工具を使用すること。
P243 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P264 取扱い後、手をよく洗うこと。
P270 この製品を使用する時に飲食または喫煙をしないこと。
P271 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

P301+P310+P330+P331 飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
P303+P361+P310+P353+P363 皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。汚染された衣服を再使用する場合には洗濯すること。直ちに医師に連絡すること。
P304+P340+P310+P320 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。
P305+P351+P338+P310 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
P308+P311 ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
P370+P378 火災の場合には適切な消火方法をとること。

【保管】

P403+P233+P235+P405 容器を密閉して涼しく換気の良い所で施錠して保管すること。

【廃棄】

P501 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別　:混合物

含有成分及び含有量

物質名	含有量(%)	毒劇法	安衛法	化管法	CAS No.
合成イソパラフィン系溶剤	35 - 45	非該当	非該当	非該当	非公開
ミネラルスピリット	40 - 50	非該当	該当	非該当	64742-47-8
ジブチルエーテル	10 - 20	非該当	該当※1	非該当	142-96-1
ポリシラザン	0.5 - 5	非該当	非該当	非該当	非公開
ケイ素化合物	0.5 - 5	非該当	非該当	非該当	非公開

この組成の正確な含有量(濃度)は営業秘密として非開示としています。

※1: 令和7年4月1日追加

4. 応急措置

吸入した場合　:空気の新鮮な場所に移し、保温して安静を保ちながら呼吸しやすい姿勢で休息させる。
嘔吐がある場合は頭を横向きにして嘔吐物を飲み込ませない様にする。
気分が悪い場合は医師に連絡する。

皮膚に付着した場合　:汚染された衣類を速やかに脱ぎ、皮膚を多量の水と石けんで十分に洗う。

外観の異常や痛みがある場合は必要に応じて医師の診察を受ける。

眼に入った場合　：清浄な流水で15分間注意深く洗う。容易に外せる場合はコンタクトレンズを外して洗眼する。
障害が遅れて現れることがあるので、必ず眼科医による診察と手当てを受ける。

飲み込んだ場合　：誤えんの恐れがあるため吐かせない。口腔内を水洗し、直ちに医師の診察を受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
：データなし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項
：救助者が有害物質に触れないよう手袋やマスクなど、適切な保護具を使用する。

医師に対する特別な注意事項　：特になし

5. 火災時の措置

適切な消火剤　：二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤

使ってはならない消火剤　：棒状注水

火災時の特有の危険有害性　：当該製品の燃焼ガスには、一酸化炭素等のほか、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には煙を吸入しないように注意する。

特有の消火方法　：消火作業は、風上から行う。
火災発生場所の周辺は関係者以外の立ち入りを禁じ、可燃物は速やかに取り除く。
容器は速やかに安全な場所に移す。困難な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も多量の水を用いて、十分に容器を冷却する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置
：消火作業では、皮膚、目、呼吸器を保護する適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項　：屋内で漏出した場合は、窓、ドアを開けて十分に換気を行う。
漏出した場所の周辺に、ロープを張る等して関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業の際、皮膚、目、呼吸器を保護する適切な保護具を着用する。
風上から作業し、風下の人を退避させる。
着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項　：洗浄した水等は地面や排水溝にそのまま流さない。
下水等に入り込まないように注意する。

除去方法　：少量の場合は、土、砂、土砂、乾燥砂、ウエス等に吸収させ、密閉できる空容器に回収する。
多量の場合は、土砂・土のう等で流出を防ぎ、安全な場所に導いて回収する。
廃棄物は、関連法規等に基づいて処理する。

二次災害の防止法　：漏出時は速やかに関係機関に通報する。
付近の着火源となるものや高温体及び可燃物を速やかに取り除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策　：換気の良い場所で使用し、蒸気及び噴霧されたミストを吸い込まないようにすること。
周辺での火気、スパーク、高温物の使用は避け、着火源から遠ざけること。

安全取扱い注意事項　：製品記載の使用上の注意をよく読み、用途以外に使用しないこと。

接触回避　：水と接触して有害ガスを発生するおそれがあるので、湿気のある雰囲気で取り扱ってはならない。

衛生対策　：必要に応じて、皮膚、目、呼吸器を保護する適切な保護具を着用すること。
作業中は、飲食または喫煙をしないこと。
取扱い後は、手洗い、うがい、洗顔等を十分に行い、作業衣等に付着した場合は着替えること。

保管

安全な保管条件	:使用するまで容器は決して開栓せず、風通しの良い冷暗所に施錠して保管すること。 直射日光、40°C以上の高温、湿気の多い所は避けること。 着火源、強酸化剤から離して保管すること。
安全な容器包装材料	:特になし。容器を移し替えないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度・許容濃度等	:規定なし
設備対策	:屋内は全体に換気する。 換気の悪い場所及び蒸気の発生の多い場所には局所排気装置を設ける。 屋内作業場で多量に使用する時は、蒸気が滞留しないように、排気装置を設ける。 発生源の密閉化、取扱いについては火気のない換気の良い場所で行う。 防爆の電気・換気・照明機器を使用し、静電気放電に対する予防措置を講じる。 取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

呼吸器の保護具	:通常の使用条件下では保護具は必要ない。有機ガス用防毒マスクを必要に応じて着用すること。
手の保護具	:耐溶剤性の保護手袋を必要に応じて着用すること。
目の保護具	:保護眼鏡を必要に応じて着用すること。
皮膚の保護具	:保護衣、保護前掛けを必要に応じて着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	:液体
色	:無色透明
臭い	:特異臭
融点／凝固点	:データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	:139°C
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	:データなし
引火点	:29°C
自然発火点	:データなし
pH	:データなし
動粘性率	:データなし
溶解性	:水に不溶
n－オクタノール／水分配係数	:データなし
蒸気圧	:データなし
密度及び／又は相対密度	:0.80 ± 0.05
相対ガス密度	:データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	:水の存在により徐々に加水分解され、水素、シラン及びアンモニアガスを発生させる。
危険有害反応可能性	:熱分解により二酸化炭素、一酸化炭素、窒素酸化物を発生させる恐れがある。
避けるべき条件	:高温、熱源、裸火へのばく露 水及びアルコールとの接触
混触危険物質	:強酸化剤、水及びアルコール類、活性水酸基を持つ化合物
危険有害な分解生成物	:一酸化炭素、二酸化炭素、刺激性ガス

11. 有害性情報

急性毒性－経口
　製品　　：区分4
　　合成イソパラフィン系溶剤　：LD_{50} > 15,000 mg/kg [原料SDS]
　　ジブチルエーテル　　：LD_{50} = 5,686 mg/kg (ラット) [原料SDS]
　　ポリシラザン　　：LD_{50} > 300-2,000 mg/kg (ラット) [原料SDS]
急性毒性－経皮
　製品　　：区分に該当しない。ATEmix > 2,000 mg/kg(ただし成分中の40 - 50%は毒性が未知。)
　　合成イソパラフィン系溶剤　：LD_{50} > 3,160 mg/kg [原料SDS]
　　ジブチルエーテル　　：LD_{50} > 7,745 mg/kg (ラット) [原料SDS]
急性毒性－吸入
　製品　　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
皮膚腐食性/刺激性
　製品　　：区分1
　　ジブチルエーテル　　：ウサギでの試験で刺激性のスコアが4(PATTY(5th, 2001))であり、また別の試験で壊死を伴わない重度の刺激炎症(HSDB(2008))が認められ、さらにEU分類がXi R38(EU-Annex I(2008))であることから区分2とした。[NITE-CHRIP]
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
　製品　　：区分1
　　ジブチルエーテル　　：ウサギでの試験で角膜傷害の刺激性のスコアが1(PATTY(5th, 2001))であり、また、EU分類でXi R36であることから区分2とした。[NITE-CHRIP]
呼吸器感作性
　製品　　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
皮膚感作性
　製品　　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
生殖細胞変異原性
　製品　　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
発がん性
　製品　　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
生殖毒性
　製品　　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)
　製品　　：区分1 (呼吸器、肝臓) ・ 区分3 (気道刺激性、麻酔作用)
　　ジブチルエーテル　　：マウスの経口投与試験において、ガイダンスの区分2に該当する576mg/kgおよび457mg/kgの用量で脂肪肝が認められ(RTECS(2007))、ラットの吸入ばく露試験において、ガイダンスの区分2を超える20.2mg/L/4時間の用量で、肺、気道の影響と脂肪肝が認められ(RTECS(2007))、さらに、マウスの区分1のガイダンス値に相当する10mg/L/30分(4時間換算:1.25mg/L)の用量で運動失調、肺、気道の影響(RTECS(2007))、10mg/L/75分(4時間換算:3.13mg/L)の用量で麻酔作用、肺、気道の影響と脂肪肝(RTECS(2007))、169mg/L/15分のばく露で麻酔作用が認められる。リスト3からのデータではあるが複数の試験において症状が共通して認められる事より区分1(呼吸器、肝臓)、区分3(麻酔作用)とした。なお、ヒトが200 ppm, 15分の蒸気にばく露すると眼と鼻に刺激性を生じるとの記述がある(HSDB(2008))。[NITE-CHRIP]
特定標的臓器毒性(反復ばく露)
　製品　　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
誤えん有害性
　製品　　：区分1

---

12. 環境影響情報

水生環境有害性　短期(急性)
　製品　　：区分3
　　ジブチルエーテル　　：LC_{50} = 26 mg/L/48h (甲殻類オオミジンコ) [NITE-CHRIP]
水生環境有害性　長期(慢性)
　製品　　：区分3
　　ジブチルエーテル　　：急性毒性区分3であり、急速分解性がない(難分解性、BODによる分解度:3%(既存点検, 1986))ことから、区分3とした。[NITE-CHRIP]

残留性・分解性
　製品　　：データなし
生体蓄積性
　製品　　：データなし
土壌中の移動性
　製品　　：データなし
オゾン層への有害性
　製品　　：データなし

13. 廃棄上の注意

許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。
容器、機械装置等を洗浄した排水は、地面や排水溝にそのまま流さない。
空容器は、内容物を完全に除去した後に廃棄する。
その他関連法規の定めるところに従う。

14. 輸送上の注意

国際規制
　国連番号　　：1993
　品名(国連輸送名)　　：引火性液体 n.o.s.
　国連分類　　：クラス3(引火性液体)
　容器等級　　：III
　海洋汚染物質　　：非該当
国内規制
　陸上輸送　　：消防法の定めるところに従う。
　海上／航空輸送　　：船舶安全法、航空法の定めるところに従う。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策
　：“取扱い及び保管上の注意”の項の一般的注意に従う。
　容器は漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
　引火性液体なので「火気厳禁」。
　水漏れ・横積み厳禁。
　容器は温度上昇を抑制するものである必要がある。
緊急時応急措置指針番号　　：128　引火性液体(非極性、水不溶)

15. 適用法令

化審法　　：本製品は既存化学物質の混合物に該当するため対象外
消防法　　：危険物 第四類 第二石油類(非水溶性) 危険等級III
毒物及び劇物取締法　　：非該当
労働安全衛生法
　危険物　　：引火性の物
　特定化学物質障害予防規則　　：非該当
　有機溶剤中毒予防規則　　：第三種有機溶剤等
　　第一種有機溶剤等　　：含有していない。
　　第二種有機溶剤等　　：含有していない。
　　第三種有機溶剤等　　：ミネラルスピリット
　表示対象物質　　：ミネラルスピリット、ジブチルエーテル (令和7年4月1日以降)
　通知対象物質　　：ミネラルスピリット、ジブチルエーテル (令和7年4月1日以降)
化学物質排出把握管理促進法　　：非該当
船舶安全法　　：引火性液体類

航空法	:引火性液体
海洋汚染防止法	:有害液体物質(Y類物質)
有害液体物質	:ばら積みの輸送条件に当たらない。

16. その他の情報

1. 配合原料メーカー発行の安全データシート
2. GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針
   (2023年9月版、一般社団法人 日本化学工業協会 編集、一般財団法人 日本規格協会 発行)
3. 各関連法規
4. NITE 化学物質総合情報提供システム(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)

混合物である製品の危険有害性情報は、個々の原材料の危険有害性情報から推定したものです。安全データシートは、危険有害な化学製品について安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱う事業者に提供されるものであり、安全の保証書ではありません。取扱う事業者は、これを参考として自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずる必要があることを理解した上で、活用されるようにお願いします。

作成日　2013年11月11日
改訂日　2024年1月31日

安全データシート(SDS)

製品名　　D-Lux COATING トップコート

1. 製品及び会社情報

製品名	: D-Lux COATING トップコート
品番	: DHT-D103
推奨用途及び使用上の制限	
推奨用途	: コーティング【業務用】
使用上の制限	: 推奨用途以外への使用は禁止する
供給者の会社名称	: 中央自動車工業株式会社
住所	: 大阪市北区中之島4丁目2番30号
担当部門	: 商品開発部 研究開発グループ
電話番号	: 06-6443-5846
FAX番号	: 06-6445-8573
整理番号	: 1106-5-D

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

: 引火性液体	区分2
皮膚腐食性/刺激性	区分2
誤えん有害性	区分1
水生環境有害性　短期(急性)	区分1
水生環境有害性　長期(慢性)	区分1

※記載のないものは区分に該当しないまたは分類できない。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語　: 危険

危険有害性情報

H225　引火性の高い液体および蒸気
H315　皮膚刺激
H304　飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
H400　水生生物に非常に強い毒性
H410　長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

P210　熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P233　容器を密閉しておくこと。
P240　容器を接地すること、アースを取ること。
P241　防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
P242　火花を発生させない工具を使用すること。

P243　静電気放電に対する予防措置を講ずること。
P264　取扱い後、手をよく洗うこと。
P273　環境への放出を避けること。
P280　保護手袋、保護面を着用すること。

【応急措置】

P301+P310+P331　飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。吐かせないこと。
P303+P353+P332+P313+P361+P364　皮膚(または髪)に付着した場合:皮膚を流水、シャワーと石けんで洗うこと。皮膚刺激が生じた場合:医師の診察、手当てを受けること。汚染された衣類を直ちにすべて脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P370+P378　火災の場合には適切な消火方法をとること。
P391　漏出物を回収すること。

【保管】

P403+P235+P405　容器を涼しく換気の良い所で施錠して保管すること。

【廃棄】

P501　内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別　:混合物

含有成分及び含有量

物質名	含有量(%)	毒劇法	安衛法	化管法	CAS No.
イソパラフィン系溶剤	90 - 98	非該当	非該当	非該当	非公開
オクタン※1	(40 - 50)	非該当	該当	非該当	非公開
ノナン※1	(1 - 10)	非該当	該当	非該当	非公開
ヘキサン※1	(0.1 - 5)	非該当	該当	非該当	非公開
ヘプタン※1	(0.1 - 5)	非該当	該当	非該当	非公開
シロキサン化合物	1 - 5	非該当	非該当	非該当	非公開
アクリル化合物	0.1 - 1	非該当	非該当	非該当	非公開
植物性樹脂	0.1 - 1	非該当	非該当	非該当	非公開
フッ素変性樹脂	0.1 - 1	非該当	非該当	非該当	非公開

この組成の正確な含有量(濃度)は営業秘密として非開示としています。
※1:イソパラフィン系溶剤に含まれる安衛法該当物質。異性体混合物の為、CAS No.は特定できない。直鎖体の含有量は化管法規制値未満。

4. 応急措置

吸入した場合　:空気の新鮮な場所に移し、保温して安静を保ちながら呼吸しやすい姿勢で休息させる。
嘔吐がある場合は頭を横向きにして嘔吐物を飲み込ませない様にする。
気分が悪い場合は医師に連絡する。

皮膚に付着した場合　:汚染された衣類を速やかに脱ぎ、皮膚を多量の水と石けんで十分に洗う。
外観の異常や痛みがある場合は必要に応じて医師の診察を受ける。

眼に入った場合　:清浄な流水で15分間注意深く洗う。容易に外せる場合はコンタクトレンズを外して洗眼する。
眼の刺激が続く場合は眼科医による診察と手当てを受ける。

飲み込んだ場合　:誤えんの恐れがあるため吐かせない。口腔内を水洗し、直ちに医師の診察を受ける。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
:肺に入った場合:咳、窒息、喘鳴音、呼吸困難、胸部うっ血、息切れ、発熱

応急措置をする者の保護に必要な注意事項
:救助者が有害物質に触れないよう手袋やマスクなど、適切な保護具を使用する。

医師に対する特別な注意事項　:特になし

5. 火災時の措置

適切な消火剤　：二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂、噴霧水、泡消火剤
使ってはならない消火剤　：棒状注水
火災時の特有の危険有害性　：当該製品の燃焼ガスには、一酸化炭素等のほか、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には煙を吸入しないように注意する。
特有の消火方法　：消火作業は、風上から行う。
火災発生場所の周辺は関係者以外の立ち入りを禁じ、可燃物は速やかに取り除く。
容器は速やかに安全な場所に移す。困難な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も多量の水を用いて、十分に容器を冷却する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置
：消火作業では、皮膚、目、呼吸器を保護する適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項　：屋内で漏出した場合は、窓、ドアを開けて十分に換気を行う。
漏出した場所の周辺に、ロープを張る等して関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業の際、皮膚、目、呼吸器を保護する適切な保護具を着用する。
風上から作業し、風下の人を退避させる。
着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
こぼれた場所はすべりやすいために注意する。
環境に対する注意事項　：洗浄した水等は地面や排水溝にそのまま流さない。
下水等に入り込まないように注意する。
除去方法　：少量の場合は、土、砂、土砂、乾燥砂、ウエス等に吸収させ、密閉できる空容器に回収する。
多量の場合は、土砂・土のう等で流出を防ぎ、安全な場所に導いて回収する。
廃棄物は、関連法規等に基づいて処理する。
二次災害の防止法　：漏出時は速やかに関係機関に通報する。
付近の着火源となるものや高温体及び可燃物を速やかに取り除く。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
技術的対策　：換気の良い場所で使用し、蒸気及び噴霧されたミストを吸い込まないようにすること。
周辺での火気、スパーク、高温物の使用は避け、着火源から遠ざけること。
安全取扱い注意事項　：製品記載の使用上の注意をよく読み、用途以外に使用しないこと。
接触回避　：水と接触して有害ガスを発生するおそれがあるので、湿気のある雰囲気で取り扱ってはならない。
衛生対策　：必要に応じて、皮膚、目、呼吸器を保護する適切な保護具を着用すること。
作業中は、飲食または喫煙をしないこと。
取扱い後は、手洗い、うがい、洗顔等を十分に行い、作業衣等に付着した場合は着替えること。
保管
安全な保管条件　：使用するまで容器は決して開栓せず、風通しの良い冷暗所に施錠して保管すること。
直射日光、40°C以上の高温、湿気の多い所は避けること。
着火源、強酸化剤から離して保管すること。
安全な容器包装材料　：特になし。容器を移し替えないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度・許容濃度等

物質名	管理濃度	許容濃度 Threshold limit value	
		日本産業衛生学会（2020年度版）	ACGIH（2019年版）

オクタン	–	–	TWA 300ppm
ヘキサン	–	–	TWA 500ppm　STEL 1000ppm
ヘプタン	–	–	TWA 400ppm　STEL 500ppm

設備対策　：屋内は全体に換気する。
換気の悪い場所及び蒸気の発生の多い場所には局所排気装置を設ける。
屋内作業場で多量に使用する時は、蒸気が滞留しないように、排気装置を設ける。
発生源の密閉化、取扱いについては火気のない換気の良い場所で行う。
防爆の電気・換気・照明機器を使用し、静電気放電に対する予防措置を講じる。
取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具
- 呼吸器の保護具　：通常の使用条件下では保護具は必要ない。有機ガス用防毒マスクを必要に応じて着用すること。
- 手の保護具　：耐溶剤性の保護手袋を必要に応じて着用すること。
- 目の保護具　：保護眼鏡を必要に応じて着用すること。
- 皮膚の保護具　：保護衣、保護前掛けを必要に応じて着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	：混濁液体
色	：無色～淡黄色透明
臭い	：特異臭
融点／凝固点	：データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	：73–140°C
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	：データなし
引火点	：-12°C
自然発火点	：データなし
pH	：データなし
動粘性率	：データなし
溶解性	：水に不溶
n－オクタノール／水分配係数	：データなし
蒸気圧	：データなし
密度及び／又は相対密度	：0.74 ± 0.05
相対ガス密度	：データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	：通常の取扱い条件において安定
危険有害反応可能性	：データなし
避けるべき条件	：高温、熱源、裸火へのばく露
混触危険物質	：強酸化剤、強酸、強塩基
危険有害な分解生成物	：データなし

11. 有害性情報

急性毒性－経口
- 製品　：区分に該当しない。ATEmix > 2,000 mg/kg(ただし成分中の60 – 70%は毒性が未知。)
- イソパラフィン系溶剤　：LD_{50} > 5,000 mg/kg (ラット) [原料SDS]

急性毒性－経皮
- 製品　：区分に該当しない。ATEmix > 2,000 mg/kg(ただし成分中の60 – 70%は毒性が未知。)
- イソパラフィン系溶剤　：LD_{50} > 5,000 mg/kg (ラット) [原料SDS]

急性毒性－吸入
- 製品　：区分に該当しない。ATEmix > 5.0 mg/L(ただし成分中の60 – 70%は毒性が未知。)

イソパラフィン系溶剤　：LD_{50} > 5 mg/L (ラット) [原料SDS]
皮膚腐食性/刺激性
　製品　：区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性
　製品　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
呼吸器感作性
　製品　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
皮膚感作性
　製品　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
生殖細胞変異原性
　製品　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
発がん性
　製品　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
生殖毒性
　製品　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)
　製品　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)
　製品　：分類できない。(現在までのところ有用な情報なし。)
誤えん有害性
　製品　：区分1

12. 環境影響情報

水生環境有害性　短期(急性)
　製品　：区分1
　イソパラフィン系溶剤　：LC_{50} > 1ppm (魚類、ミジンコ、藻類) [原料SDS]
水生環境有害性　長期(慢性)
　製品　：区分1
残留性・分解性
　製品　：データなし
生体蓄積性
　製品　：データなし
土壌中の移動性
　製品　：データなし
オゾン層への有害性
　製品　：データなし

13. 廃棄上の注意

許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。
容器、機械装置等を洗浄した排水は、地面や排水溝にそのまま流さない。
空容器は、内容物を完全に除去した後に廃棄する。
その他関連法規の定めるところに従う。

14. 輸送上の注意

国際規制
　国連番号　：1993
　品名(国連輸送名)　：引火性液体, n.o.s.
　国連分類　：クラス3(引火性液体)
　容器等級　：II
　海洋汚染物質　：該当

国内規制
　陸上輸送　　：消防法の定めるところに従う。
　海上／航空輸送　　：船舶安全法、航空法の定めるところに従う。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策
　　：“取扱い及び保管上の注意”の項の一般的注意に従う。
　　容器は漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
　　引火性液体なので「火気厳禁」。
　　水漏れ・横積み厳禁。
　　容器は温度上昇を抑制するものである必要がある。
緊急時応急措置指針番号　　：128　引火性液体(非極性、水不溶)

15. 適用法令

化審法　　：本製品は既存化学物質の混合物に該当するため対象外
消防法　　：危険物 第四類 第一石油類 危険等級II
毒物及び劇物取締法　　：非該当
労働安全衛生法
　危険物　　：引火性の物
　特定化学物質障害予防規則：非該当
　有機溶剤中毒予防規則　　：非該当
　　第一種有機溶剤等　　：含有していない。
　　第二種有機溶剤等　　：含有していない。
　　第三種有機溶剤等　　：含有していない。
　表示対象物質　　：オクタン、ノナン、ヘキサン、ヘプタン
　通知対象物質　　：オクタン、ノナン、ヘキサン、ヘプタン
化学物質排出把握管理促進法：非該当
船舶安全法　　：引火性液体類
　個品運送　　：海洋汚染物質
航空法　　：引火性液体
海洋汚染防止法　　：有害液体物質(X類物質)
　有害液体物質　　：ばら積みの輸送条件に当たらない。

16. その他の情報

1. 配合原料メーカー発行の安全データシート
2. GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針
   (2023年9月版、一般社団法人 日本化学工業協会 編集、一般財団法人 日本規格協会 発行)
3. 各関連法規
4. NITE 化学物質総合情報提供システム(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)

混合物である製品の危険有害性情報は、個々の原材料の危険有害性情報から推定したものです。安全データシートは、危険有害な化学製品について安全な取扱いを確保するための参考情報として取扱う事業者に提供されるものであり、安全の保証書ではありません。取扱う事業者は、これを参考として自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずる必要があることを理解した上で、活用されるようにお願いします。